

牙氏 獵刺

初學須知

田中耕造譯

五中

書 籍

設冊	冊數	冊數
一	一	四
五		
學校	縣中	滋賀

雜
三

400

846

Vol.7



式初學須知卷之五中

動物學目錄

第十三 象及象牙

第十四 犀 河馬

第十五 豕 野豬

第十六 馬 驢 馬及牡驢

第十七 三翻蓋動物 兩峰駱駝 單峰駱駝

第十八 鹿 野鹿

第十九 鹿 金錢鹿 野牛

第二十 牛及水牛

牙 目錄

第二十 綿羊 西班牙綿羊 組織毛

第二十一 北山羊 克什米爾

第二十二 鳥

第二十三 鷲

第二十四 鷓鴣

第二十五 樂土鳥 蜂雀 金絲雀

第二十六 燕

第二十七 獵鳥 家禽

第二十八 鳩 借老鳩 長生鳩

第二十九 駝鳥

第三十 鷓鴣 鷓鴣類

鷓鴣

鷓鴣及

目錄

目錄

卷之五

第十三章 象及象牙

第十四章 犀

第十五章 鹿

第十六章 麋

第十七章 麂

第十八章 兔

第十九章 狐

第二十章 貉

第二十一章 鼬

第二十二章 鼯

第二十三章 鼯

第二十四章 鼯

第二十五章 鼯

第二十六章 鼯

第二十七章 鼯

第二十八章 鼯

第二十九章 鼯

第三十章 鼯

初學須知卷之五中

時々々々々々々々々々

其山々々々々々々々

其山々々々々々々々

第十三章 象及象牙

食草動物ノ中、皮膚甚堅好、レテ恰、甲冑ノ如ク、

全身裸體ニシテ殆、毛衣ナク、或ハ毛アリトモ甚、

稀少ナル者ヲ稱シ、天豊肌動物ト云フ、厚皮獸ノ

義ナリ、其形容鈍重醜惡ニシテ性柔和ナリ、然レ

トモ之ヲ挑ミ怒ラセムニハ大ニ畏ルベク、哺乳



田中耕造 譯
佐澤太郎 訂

獸中此目三属スル者ハ象、犀、河馬、野猪、家豕、

形家豕ニ類シ鼻長出等即是、

象第七十亞細亞及亞非第七十六

利加ニ住ス、身體ノ高大抵

五、

此等至、頭ハ巨大ニシテ

廣キ耳兩側ニ垂下ス、眼ハ

甚小ナレトモ快器柔和ノ

相アリ、状貌粗大ニシテ舉

動遲鈍、天性智慧



テリテ主人之ヲ愛スレバヨク其指令ニ順フ、然

レドモ若虚使スルトキハ、ヨク其怒氣ヲ忍ビ、

他日機會ヲ待テ、其舊怨ヲ報スル云フ、

象ノ諸機關中形容最奇ニシテ、其功用モ亦最、

ナル者ハ鼻ヲリ、鼻ハ甚長クシテ、一ノ

連ニ其端ニ指ノ如キモノアリ、能ク巧ニ細微

ノ物ヲ拾撥スルナリ、其領甚短クシテ、轉轉俯仰

自由ナラズルガ故ニ、地上ノ物ヲ摘ニ樹上ノ物

ヲ取リテ、之ヲ口ニ入ルニモ亦皆鼻ヲ用非ル、且

鼻ノ質甚柔軟ニシテ、屈撓シ易ク、運迴伸縮自在

ナリ、蓋頭首ノ運轉ノ不便ナルヲ償之所以ナリ
 象ハ口ニ大牙二箇アリ、上齧ヨリ出テ前ニ向テ
 名ツケテ護身牙ト云フ、時ニハ其長一ノ上ト半
 半ニ至ル者アリ、象牙其稱シテ貿易品ニ供之
 五以テ各品ヲ製造ス而シテ多クハ牽鑽ヲ用井
 天小器ヲ製ス、象牙ハ象骨ニ比スレバ、其質更ニ
 堅硬ニシテ緻密ナリ、以テ更ニ精細ナル工術
 ナモ施シ得ベシ、且、象骨ハ速ニ變ヒテ黄色トナ
 レドモ象牙ハ然ラズ、固有ノ美色ヲ失ハズシテ
 常ニ透明ナリ

象ノ脚ハ肥太鈍重キニ於恰、柱ノ如シ、脚端ニ足
 ナリ、其見ルニキ者ハ唯、爪ノ長ナリ、如此行歩
 不便トナリ、似タレドモ、速ニ馳走シテ駿馬ト匹
 行カルトナリ、且、日ノ之ヲ飼養スルハ、一日ニ斗
 石有五十和也、其速キニ達スベシ、其
 象ハ多ク駄獸ニ供用ス、力量強大ニシテ、脊ニ二
 骨ギ重シトシ、心ハ重シヲ荷ヒテ進行ストモ疲
 勞也、因トテ、其力ハ其速ニ比ス

象ノ郊野ニ在ル者ハ、四十頭乃至五十頭群ヲ成
 シテ徘徊シ、其隊中最長シク居者之ガ前驅トナリ

リテ衆象ヲ嚮導シ、少弱ナル者ヲ中ニ列シ、強壯
者ハ耆殿後トナリテ之ヲ擁護シ、以テ預其強敵
也ル虎ノ来リ侵スヲ防グナリ

象ヲ生獲スルニハ馴象ヲ用非ル、其法馴象ヲ野
象ハ群中ニ放チ置テコト數日ナレバ、野象モ亦
馴象ノ如ク温和柔順トナレ、此時熟米若ハ生米
ニ水ヲ和シテ之ヲ飼養ス、其一日間ノ飼料三十
乃至四十ヤロクテシムヲ費ス、又飼葉大約六十
乃至七十ヤロクテシムヲ與ヘ、其後多量ノ水ヲ
給シテ飲水并ニ浴水ニ供セシコトヲ要ス

野象ハ能ク二百歳ノ壽ヲ保ツ者アレドモ、之ヲ
家ニ畜フトキハ甚短命ニシテ、五十歳ニ過グル
者殆稀ナリ

第十四 犀 河馬

犀第七十 八南亞細亞印度瓜哇

蘇門答臘錫蘭嶋ニ産シ、亞非利

加ニ於テモ亦之ヲ見ル、其脚

ハ象ヨリ低ク體ハ却リテ象ヨ

リモ長シ、故ニ其高ハ二尺、小ハ十

以半ニ過キヤロドモ、長ハ大約



第七十七圖

四ノ一トル一及ブ、鼻脊ニ一ノ長角ヲ生ズ、其根
 潤クシテ末端尖リ、其長或ハ七十センチノ一ト
 止ニ至ル者アリ、犀之ヲ以テ其身ヲ護衛スル要
 具トナシ、能ク虎及象ト勇闘シ、常ニ劇シク敵獸
 ノ腹ヲ衝突ス、犀ハ勇斗云ハシヨリハ暴ト云フ
 ハシ、性閑寂ヲ好シ、猥ニ人ヲ犯サス、然レドモ人
 若、迫逐スルトキハ、勇奮シテ能ク之ヲ防ク
 犀ノ皮ハ甚堅厚ニシテ鎧ノ如シ、能ク銃丸ヲ防
 然、俾腹皮ハ然テ登トス
 河馬ハ亞非利加内塞内加爾佛朝カ有英吉馬達
 西領

加折加爾ニ於キテ之ヲ見ルノ容貌甚醜惡ニ
 シテ厭フベキ四足獸ナリ、頭甚大ニシテ口吻モ
 亦大ナリ、且耳ノ小ナルヲ以テ、形容最鈍重ナシ
 テ最醜ニ、平常沼澤泥土ノ内ニ半身ヲ沈メテ轉
 輾遊嬉ス、群ヲ成シテ行過スト、雖象隊ノ如ク多
 キニ至ラズ

河馬ノ齒ハ廣濶堅實ニシテ清白ナリ、以テ種齒
 ヲ製スベシ、殊ニオザノト名ツケル種齒ヲ作
 ルニ用井ルナリ、其全體
 第十五 家豕 野猪

第七十八圖



人ノ食品ニ供スル諸家畜中、家猪第七十ノ如クハ利益アルモハナシ、其全體處トシテ用井ルベカラサルコトナク、肉ハ稍硬ケ、味美ニシテ滋養ノ功アリ、シシ股肉ハ焙リテ燻肉ヲ製スベク、シシ肉ハ焙リテ小燻肉ヲ製スベク、皮ハ粗製ノ革トスベク、シシ兩肋ハ腊肉ハシシテ止シシ脂トスベシ、其腸ハ能ク洗滌烹熟シテアングーイシシ俗言ク肉ヲ製スベシ、シシ腸詰メナリ、シシヲ製スベシ、シシガトクハ脂肪トシテトヲ猪血ニ

混ジテ、之ヲ豚腸内ニ包藏スル者ナリ、融解シタル猪脂ハ、割烹家ニ於キテサレトト名ツケテ食物調理ニ用井、製藥舖ニ於キテハオクソレシユト稱シテ各種ノ香膏ヲ製スルニ用井ル、車軸ニ塗ル所ノ脂油シシトユイソアトト名ツクル者モ亦融解セザル猪脂ナリ、シシ牡ヲ猪ト名ツケ牝ヲ猪ト稱ス、每孕ハ子乃至士ニ子ヲ産ス、シシ猪ニ手術施シ交接スルコト能ハザラシノテ、速ニ肥大セシムルコト多シ、之ヲ稱シテゴキト云フ

野猪 第七十九

第七十九圖

其行

步全ク家

豕ニ類ス

然レトモ

家豕ニ比

スレハ大

ニシテ且



強就中頭首甚大ニシテ、鬣ヲ猪牙ト名ツクル
護身牙アリ、短カケレドモ甚畏ルベキ牙ナリ

野猪ハ鼻、^{シグ}及草木ノ根ヲ食ク、性他獸ト闘ス
コトヲ好マズ、之ヲ挑ミ怒ラシムルニアラサレ
ハ決シテ入ラズ犯スコトナシ
野猪ハ狩獵ハ危害多キ者ナリ、何ホナレバ其體
肥大ニシテ、形狀不便ナルガ如シト雖、能ク駿走
直進シテ敢テ回顧セズ、森林ヲ通過シテ途ニ當
レル低樹等ハ皆之ヲ折傷シテ去ル、獵犬急ニ迫
ルテ其頭鼻ヲ噬マントスレバ、力ヲ極メテ之ニ
抗シ、奮跳シテ犬腹ヲ傷ス、或ハ直ニ獵者ノ前ニ
突進シ、獵者ヲ衝倒シテ其上ニ跨リ、猪牙ヲ以テ

之ヲ傷裂スルコトアリ其土一牧人語云々
 野猪ハ其體ノ部分ニ因リテ味甚美ナリ例スル
 コト頭及足ノ肉ノ如キ即是ナリ
 一第亦六辛馬驢馬及牡騾騾
 古來人ノ捕獲スルコト最舊タシテ又最貴シト
 ス此者ハ馬驢ナリ其性常ニ能ク危險ニ耐ヘ
 動作久シキニ至リテモ曾テ疲勞スルコトナキ
 カ故ナリ馬ノ人ニ使用セラルハ甚舊シ本何
 邦ノ産ナリヤハ今得テ確知スベカテ下雖蓋
 阿刺比ヨリ初マルニ似たり並墨利加ノ牧地ニ

於キテモ亦野馬ノ群ヲ成セルヲ見レドモ其洲
 向馬種ノ入ルタルハ一千五百年ノ初西班牙人
 攻撃ノ時ニ至ル方今ニ至ル第八十圖
 リテハ各國苟人類住居シテ牧草ヲ生サル地ニハ必
 馬種アルナリ
 野馬ハ皆阿刺比馬ノ如ク
 目巨大ニシテ且甚銳シ其
 輕捷駿速脚膈ノ曲リ易ク



牙
 卷五
 八
 大

氏有傳... 光五...
シテ強健ナルガ故ニ、之ヲ以テ騎乘獸ノ尤ナル者トス

野馬ハ皆一樣ナレドモ、之ヲ氣候ノ異ナル所ニ移セバ、他ノ獸ヲ養育スルガ如ク、大ニ其本質ヲ變シテ多ク種屬ヲ生じ、或ハ專重荷ヲ負ハレ、或ハ驅馬軍馬等ニ供スルナリ、英吉利産ノ驅馬ノ體脚皆瘦セ頸細長ク、性銳敏ニシテ形容美艶ナル者ト、其酸酒馬麥酒ヲ製スル馬體格肥大ニシテ胸濶ク、四肢太クシテ短ク、筋力甚強キ者トヲ比較スレバ、其差著明ナルドモ、全ク同類ノ獸ニシ

テ其種屬ノ異ナル者ヲ交接セズ、其産育者ノ養育方ヲ異ニシテ、漸々其本質ヲ變換セシメシ者ハ適例ナリ、馬ハ大約三十歳ノ壽命ヲ保ツ者ナレドモ、此際絶エズ役使セラレ、コトハ甚稀ナリ、能ク勞ニ堪フルハ蓋十二歳或ハ十三歳ニ過ヤザルナリ、馬皮ハ軟韌ノ革トナルガ故ニ、鎧工之ヲ用非テ鎧外製ス、頸并ニ尾ノ長毛ハ其用數多ク、以テ器具ニ張リ薦蓆ヲ作り繩索ヲ絢ヒ篩ヲ製シ提琴ノ弦ヲ造リ亦組織ニ用非ルベシ、骨ハ獸黑

料ノ画ヲ取ルベク、腸ハ膠質ヲ製スベシ其未勞役
 ヲ服セズシテ夭死シ、疾病ニ因ラザル者ハ其肉
 モ亦食品ニ供スベシ其滋養ノ功アルト味ノ美
 ナクト殆、牛肉ノ如シ
 驢馬ハ馬ニ比スレバ小ニシテ弱ク、其容色モ亦
 馬ヨリ下ナル歎ナリ、亦能ク人ニ役使セテ、其
 性甚、飲食ヲ節ニシ能ク勞作ニ堪フルヲ以テ、田
 舍貧民ノ馬ヲ飼フコト能ハザル者ハ皆之ヲ役
 使ス、其能ク飲食ヲ節スルカタノニ、馬ニ比スレ
 バ健全ニシテ疾病寡ナシ、壽ハ大約十五年若ハ

二十年ニ達ス、
 牡驢ハ馬ト驢馬トノ二類相交接シテ産スル駃
 雜種属ナリ、牡驢ハ其尾ノ形状ト耳ノ長キトハ
 驢馬ニ類シテ、耳ハ驢馬ヨリ稍短シ、其脊上ニ黒
 色ノ十字紋ヲ印スルコトモ亦驢馬ノ如シ、但其
 全貌ト脚ノ形状及舉動ハ皆馬ニ類ス、其頰剛
 ナルコトハ亦廣ク諸州ノ恒言トナルニ至ル、行
 步甚健ニシテ徐ナルガ故ニ、山國ニ於モテハ大
 ニ之ヲ貴重ス、山中險難ノ道路ヲ行步セシムル
 ニ跌蹶スルコトナシ

距細亞及亞非利加ノ地方ニ「エミオ」ト「オナケル」
 以上「ア」ト「下」ト名カクル獸あり、皆夫ヲ驢馬ニ
 類似ス、故ニ驢馬ハ此等ノ獸中ノ後裔ナラント
 スルモ亦理トキニアラケルナリ
 第十七、翻齧動物ニ兩峰駱駝、單峰駱駝
 翻齧動物目中之者ハ上頰ニ前齒又門齒ナク兩頰
 ニ犬牙ナク且飲食消化機關ノ結構甚奇異ナル
 獸ニシテ其數甚多シ、其胃ハ數囊ヨリ成レル者
 ニシテ食物ヲ嚥下スレバ先ハ「ハ」ト名ツクル

最大ノ囊中ニ入り暫茲ニ止マリテ口ニ翻出シ、
 口内ニ於キテ更ニ之ヲ咀嚼シ且津唾ヲ以テ調
 和ス、是翻齧ノ名又此所以ナリ、其後食物再下リ
 所ハ「ハ」ノ側ヲ過シ、心ニ入ラズシテ別囊
 中入り次ニ腸ニ下行ス、翻齧動物ハ其指端ニア
 ル爪即蹄ヲ以テ歩行ス、蹄ニ二指ヲ具スルガ故
 ニ足ニ裂痕アルナリ
 翻齧動物中額ニ角ナキ者アリ、兩峰駱駝、單峰駱
 駝ニ「ハ」ト「下」ト是ナリ、但角アル者最多シトス、
 其末毎歲舊角脱落シテ更ニ新角ヲ生ズル者ア

鹿金錢鹿... 是... 又其角終始脫落
セザル者アリ、牛、牡羊、北山羊等是ナリ

兩峰駱駝ト單峰駱駝トハ同種異類ノ獸ナリ、兩

峰駱駝一圖 第八十ハ脊ニ二峰 第八十一圖

アリ、單峰駱駝二圖 第八十ハ一

峯ナルヲ以テ異ナリトス

兩峰駱駝ハ波斯ニ産シ單

峯駱駝ハ阿刺比及埃及ニ

生クニ

此六類ノ獸ハ皆能ク飲食



ヲ節スルヲ以テ名ヲ得タリ、亞細亞及埃及地方
ノ貿易ニ於キテハ、此獸ノ功實ニ居多ナリトス

第八十二圖 非其足濶大ニシテ沙漠ヲ行

クニ躡蹶ノ患ナク、筋力甚

強キ故ニ能ク重荷ヲ遠

地ニ送致ス、性質柔馴忍耐

ニシテ大ニ虛使挑怒スル

コト非シ、以テ常ニ能ク主人

ノ勞ヲ分テ、飲食セシテ

行旅スルコト三日或ハ四



日ノ久シキニ至ル、蓋其胃甚大ニシテ豫多量ニ
 飲食ヲ畜藏シ、飢ヲ催スニ及バ先ニ食ヲ嚼ハ
 者ヲパンストヨリ翻出レテ之ヲ嚼ミ漸々費消ス
 ルガ故ナリ
 駱駝ニ類共ニ其乳軟ニ乳汁ハ大ニ滋養ノ功ヲ
 有リ、其毛ハ製シテ衣ヲ織リ、且甚強固ナル繩索ヲ
 製スベシ

第八十 亞非利加大陸ニ産スル奇獸ノ
 一也、其頸異常ニ長クシテ屈曲意ノ如クナラ
 ズ、頭亦長クシテ數寸ニナリ、中實小

角 他ノ角ハ皆
 中ニ二筒ヲ戴
 キ、肩ト股トノ
 長大ニ異ニレ
 テ前半身ノ高
 後半身ノ二倍
 ニ至ル、此ニ由
 リテ其動作甚奇異ナリ

第八十三圖



シテスハ地ヨリ頭頂ニ至ルマテ其高大約五尺
 トトシ乃至六尺トシアリ、而シテ頸ノ高其半

以上ニ居ルナリ
曰ラフノ馳走スル時ハ頭首ヲ前ニ突出シ體ヲ
振揺シテ兩足一齊ニ地ヲ離レ其状甚奇ナリ名
ツケテアレカ此俗ニカク尺又ト云フ然レドモ
其行クニト甚早く性順和ニシテ人ヲ犯スコト
大ニ憚ルベキナリ食肉ル
猛獸ノ来リテ咬マントスル時モ亦之ヲ蹴ルノ
外列ニ防禦ハ技ナシ

曰ラフハ樹木ノ葉ヲ取り或ハ野草ノ芽ヲ食ト
ス其草芽ヲ食フ時ハ必前脚ヲ左右ニ開キ長頭

ヲ屈曲シテ地ニ達ス鹿此ニ云テ是也

第十八

鹿

シカケト云テ是也金鏡鹿其野鹿也

鹿第四圖ハ歐羅巴森林ノ鹿也其高殆二

スルモノハ地上ヨリ頭頂ヲ算スル其高殆二

ノトト此ニ達ス毛ハ褐色ニ赤テ赤棕色ノ帶七

頭ニ枝條ノ如キ二角又其形圓クニ其質稍

粗夫リ名ゾクテ鹿角也其前ニ向ヘル二箇

ノ本枝ヲ主枝ト稱シ其他ノ枝ヲ小枝ト云フ鹿

ノ大ニシテ外枝數々全備ス所者ハ獵夫之ヲ名シ

手ノ...

大其鹿落スル時ハ遠ク深森ノ中ニ隱匿スル
 裝飾ヲ失ハルヲ卑ツル者
 如シ、鹿ノ馳驅ルハ甚速ナリ
 其馳スル時ハ仰テ角ヲ脊
 ニ伏シテ能ク峻險ヲ踰越ス、
 之ヲ驅獵スルニハ通常馬ニ
 騎リ且犬ヲ使用シ、其窮迫シ
 テ自付ルハニ至ルマテ之ヲ
 驅逐ス、或ハ之ヲ驅逐スルコ



ト一晝夜ノ久シキニ及ブコトアリ、其群犬ノ窮
 迫スルニ當リテハ、鹿之ニ抗敵シ角ヲ以テ之ヲ
 防ギ、遂ニ犬ノ為ニ喉ヲ扼セラレテ死シ、若ハ獵
 夫ノ銃又ハ劍ノ為ニ死スルニ至リテ止ム
 牝鹿ニハ角ナシ、其子ヲ稱シテ鹿子ハオシ又ト
 云フ

シュガレイ五圖 第八十八鹿ヨリ小ニシテ、毛色ハ却

リテ鹿ヨリ濃ナリ、角ハ甚短クシテ、其端分裂ス
 レドモ枝條ヲカヤサズ、其牝ヲシュガレイトト名ツ
 亦牝鹿ノ如ク角ナシ、シュガレイトトノ肉ハ甚美

牙ノ黒頭口 卷五ノ 十五

味ニシテ芳香アリ、鹿肉ノ硬クシテ皮同嚼ムカ
如キニアラズ、即ユウレイトテ狩獵スルモハ、鹿狩
ノ如ク驅逐窮追シテ之ヲ捕獲ス亦ト銃ヲ以テ

之ヲ射

殺スル

其類ア

以金錢

鹿ハ大

殆鹿ニ

等シク、其類ハ十中ニ一ニシテ、其類ハ大



體ニ白色ノ斑紋アリ、角ニ枝條アリトモ平扁ニ

シテ其端潤ク且鋸齒状ヲ大ニ佛朗西ノ林中ニ

ハ之ヲ見ルヲト勸テ久、英吉利ノ森林ニハ甚多

云云、其類ハ十中ニ一ニシテ、其類ハ大

野牛オウゴン、第ハ廿ハ亞爾

卑斯山ノ峻巖巖然

於此頂上ニ住カ之

ヲ狩獵スルコト甚

危ク且難シ是其性

疑心深ク此類人ヲ

第六十八圖



見_レ上_レ於_レ忽_レ逃走スルカ故ニ、獵者其巢窟ノ近傍ニ
隱伏シテ其過_ルヲ伺_ヒ、不意ニ之ヲ襲_フニ
テ其_レ始_メ獲_ルコト能_ハガレバナリ

野牛ハ帶褐灰色ニシテ、其角額ニ直立シ端末少
ク後ニ屈ス、皮ハ高價ナル軟革ヲ製スベシ、良
製ハ北山羊革及綿羊革ニ等シ

浮蘭牛斯山ニ産スル野牛ヲイザルト蹄ス

第一等トスル牛及水牛

牛々余ニ於ケル其功用ノ多クシテ且緊要ナル
豕ト馬ト如ク其行歩自遅ク雖躡蹶ノ患少ナ

次且筋力甚強ク自テ能ク耕作ノ役ニ適ス又其
肉ハ美味ニシテ滋養ノ功多シ、故ニ食用獸中々

第一等トスル牛

總テ牡ヲ牝ト云ヒ牝第七圖ト云ヒ子

ヲ犢ト云フ、而シテ其特ニ驕牛ト稱スル者ハ

手術ヲ行ヒテ交接スルコト能ハザラシムル牡

牛ナリ、牛ノ額ニ少ク曲レル中虚ノ角ニ箇

ナク是護身ノ要具ナリ、若他物来リ犯シテ激怒

スルトキハ、頭ヲ低レ之ニ向ヒ、其角端ニ懸ケ

テ敵ヲ擲_クナリ、西班牙人ハ大ニ好ミテ牡牛ヲ

見正不忽逃走スルカ故ニ獵者其巢窟ノ近傍ニ
隱伏シ其過久クヲ睨ヒ不意ニ之ヲ襲フニ
テ捕ルバ殆獲ルコト能ハザレバナリ

野牛ハ帶褐灰色ニシテ其角額ニ直立シ端末少
ク後ニ屈ス皮ハ高價ナル軟革ヲ製スベシ良
製ノ北山羊革及綿羊革ニ等シ

浮爾牛斯山ニ産スル野牛ヲイザルト蹄ス

第十九 牛及水牛

牛ハ余ニ於ケル其功用ノ多クシテ且緊要ナル
野馬如ク其行歩自遅ク雖躡蹶ノ患少ナ

又且筋力甚強ク其テ能ク耕作ノ役ニ適ス又其
肉ハ美味ニシテ滋養ノ功多シ故ニ食用獸中ノ

第一等トス

總テ牡ヲ牝ト云ヒ牝第七圖ヲ牝牛ト云ヒ子

ノ犢牛ト云フ而シテ其特ニ驕牛ト稱スル者ハ

手術ヲ行ヒテ交接スルコト能ハザラシムル牝

牛ナリ額ニ少ク曲ル中虚ノ角ニ箇

ノ頂是護身ノ要具ナリ若他物来リ犯シテ激怒

スルトキハ頭ヲ低レ之ニ向ヒ其角端ニ懸ケ

刃敵ヲ擲ツテテリ西班牙人ハ大ニ好ミテ牝牛ヲ

トス
牛角ハ死ニ至ルヤテ決
シテ脱落セズ、若之ヲ碎
挫スルトキハ再生スル
コトナシ
牛ノ力ハ頸ト胃トノ筋
ニ於キテ最強ニ故ニ之



ヲシテ重キヲ挽キ田ヲ耕サシムルニハ二牛ヲ
并ヘテ其頸若ハ角ニ扼ヲ載セテ之ヲ同繫ニ其

扼ヲ鋤柄ニ結着キテ挽カシム、牛ノ力ヲ施シ
テ挽ク者ハ即其扼ホリ然則トモ首録ヲ用井ル
テ最善トス、而シテ其進行ヲ促スニハ鞭笞ヲ
以テ之ヲ打タズ、針ト名繁タル尖リタル長
棍ヲ用井テ之ヲ刺衝スルナリ、牛亦針ヲ引
牛ハ喫食スルハ速ニ吞ミテ徐ニ之ヲ翻齧ス、平
常ハ行歩ハ遲鈍カレドモ恐怖スル時又ハ觸怒
スル時ハ馳走甚速ナリ、其睡眠スル時間ハ短久
且熟寐スルコトナク、體甚健強ナリトモ大ニ寒
威ヲ畏レ、胃寒ニテ死ニ易ク、牛ノ力ハ大ニ寒

牛ハ命ハ元來殆十五歳ニ及ブ者ナレドモ大抵
 未^ニ至^ル齡ニ至^リスシ^テ之^ヲ殺^ス、牛ハ或ハ野ニ
 牧^シ或ハ檻ニ養^ヒ以テ屠人^ニ賣^ル、但^シ牝牛ハ
 肉ハ硬^クシ^テ消化^シ難^ク、牝牛及^シ驢牛ハ肉ハ軟
 牛^ニ比^シテ滋味^{アリ}、犏牛ハ肉ハ牝牛及^シ驢牛^ニ比^シテ
 以^テハ甘味^滋養^力共^ニ稍^劣レ^ルモ亦佳^{ナリ}、牛乳
 ハ飲^ムベ^ク亦牛酪及^シ乾酪^ヲ製^スベ^シ、
 牛^ノ皮骨ニ至^ルニテ皆製作^ノ用ニ供^スベ^ク、一
 ト^シテ廢棄^スル所^{ナシ}、其角ハ以テ角笛^ヲ作^ル
 也^ク、且^ツ牽^鑽ニ加^ヘテ之^ヲ磨切^シ、或ハ之^ヲ蒸^熟

シ^テ柔軟^{ナラシム}レ^バ、亦以テ各樣ノ器具^ヲ製
 ス^ベシ、皮ハ硝製^シテ堅硬^ノ革ト^{ナシ}靴工^之ヲ
 用^井ル、蹄骨并^ニ皮膚ハ皆膠質^ヲ製^スベ^ク、又^シ獸
 黒^色ノ^画料^ヲ製^スベ^シ、血ハ舍利^別ヲ漉^漉シ、及^シ砂
 糖ヲ清淨^{スル}ニ用^井ルナ^リ、
 水牛^ハ第^八十^ハ牛^ニ比^スレ^バ更^ニ強^ク、頭ハ巨大
 ニ^シテ圓^ク鬣^ノ如^キ裝飾^{アリ}、且^ツ二箇^ノ短角^ヲ
 具^ス、色ハ淡黒^ヲ常^トス、蓋^テ元^亞非利加^及印度^ノ
 産^{ナリ}、然^レドモ以太利^ニ於^キテハ古^{ヨリ}水牛
 ヲ産^シ、家畜^トシ^テ牛^ニ代用^{スル}ニ至^リ、佛^朝



西ニ於キテハ帝國タリシ時
 既ニ能ク氣候ニ馴レシ膏
 今尚方ニ於キテ之ヲ見
 此獸ヲ畜養スルニハ櫛内
 ニ入レカシテ沼澤ニ放チ自
 在ニ澤中ニ潜入セシムルナ
 リ

亞墨利加ニモ亦野生牛久一
 類心ソシテ牛ト名ヅクル者
 スレドモ未之ヲ馴養
 シテ家畜トスルコト能ハザルナリ

第三十、綿羊

西班牙綿羊

組織毛

羊ノ家畜中最柔和最ニシテ人ヲ犯スコトモ亦最
 少ナキ者ナリ、牡ヲ稱シテ牡羊ト云フ、曲リテ表
 面ニ波紋アル雙角ヲ具ス、牝ニハ角ナシ、名ヅク
 テ牝羊ト云フ、所謂綿羊第九圖ハ全ク牡羊ト同
 物ナレドモ、角ナキヲ以テ異ナリトス、猶驢牛ハ
 牡牛ト同物ナレドモ、人エヲ施シテ交接スルコ
 ト能ハザラシムル者ヲ稱ナルガ如ク、牡羊ハ綿
 羊ニ比スレバ人ニ馴レ難キ且尚、稍野生牡羊ノ
 争鬪ヲ好ム質ヲ存ス、故ニ牡羊其群中ニ於キテ

第八十九圖 羊 五ニ争闘シ、頭ヲ低レテ觸ル

ト北羊トハヨク人ニ馴ル

カ故ニ自争闘防禦ニ拙ニ然

レドモ其山國ニ於キテ馴養

未全カラサル者ハ頗銳敏ニ

シテ勇アリ、稍野獸ノ質ヲ存



スト云フ

綿羊ハ其毛ヲ織サテ布トナスベク、其皮ヲ硝製

シテ鞆トナスベク、羊乳ハ以テ數種ノ乾酪ヲ製

スベク、綿羊ノ肉亦其味犢牛肉ニ勝レリ

綿羊ノ種屬多ク、即尋常綿羊西班牙綿羊

毛綿羊是ナリ、彼此ノ種屬ヲ交接セバ、更ニ

數多ク異類ヲ生スベク、且其毛ハ略クニ

尋常綿羊ハ其毛ヲ以テ疎布ヲ製スベク、然レド

モ飼畜シテ之ヲ屠人ニ賣ルコト最多シトス、但

三四歳ニ齡ニ至リ、全ク成長スルニアラサルハ

飼畜ノ功ニ由リテ肥大セシムルコト能ハサル

ナリ

西班牙綿羊ハ多量ノ毛ヲ生スルコト尋常綿羊

ナリ

此スルハ殆半ヲ倍ス、且其毛ハ細ク且ク縹緲
如クナルヲ以テ布ヲ織ル者甚之ヲ賞ス、然レ
トモ毛ヲ生ズルコト如此多キガ故ニ發育ニ害
アリテ肥大スルコト能ハズ、屠者ニ賣ルニハ利
アラズト云フ、然レハニ賣ルコトハ發育ニ害
長毛綿羊ハ西班牙綿羊ニ反シ、飼養ニヨリテ大
ニ發育シ甚肥大セシムベク、且其毛ハ細クシテ
縹緲ナズニヨリ然レトモ西班牙綿羊ニ比ス
ルハ毛ヲ生ズルコト其量甚少ナシ、長毛綿羊中
英吉利ニ産スル者ハ殊ニ貴重セラル、是原、彼此

種屬ヲ交接セシメテ得ル者ニシテ、其始メテ
此種屬ヲ得タル牧人ノ名ヲ取りテ、ジスレイ綿
羊ト稱スルナリ、其原種屬ハ佛朗西盧西隆ノ産
ナリ、此種綿羊ハ、縹緲ニ比ス

綿羊飼養ノ法ハ、之ヲ養フ目的ニ由リテ各異ナ
リ、尋常綿羊ハ貴重セザルガ故ニ郊野ニ放チ、犬
ヲシテ之ヲ護セシメ其自食ヲニ任ス、西班牙綿
羊ハ舍内ニ圍養ル規定シテ多量ノ食ヲ與ヘン
コトヲ要ス、毎日生草枯草ヲ合セテ大約一キロ
クテニハ半ヲ用ルルベシ、此種綿羊ハ發育

速ニシテ肥大ハ期モ亦早キカ故ニ更ニ多量ノ食ヲ要スルナリ

第二十一 牝山羊ニキル 克什米爾

牝山羊ニキル 第十圖 頭ニ雙角ナリ 第九十圖

頤ニ細鬚ナリ垂下スル者好ニ

ナリ其性快豁ニシテ意志變

ニ易シ之ヲ綿羊ノ群ニ混ス

レバ其群ヲ暴凌ス若牧人之

ヲ監護シテ其暴凌ヲ防ガバ

遠ク逃レテ隱匿ス新生ノ葡萄



葡萄樹木ノ嫩芽ヲ食ヒ種植ヲ殘害ス故ニ耕作

大為ザレ山園若ハ不毛ノ地又ハ灌木ノ繁茂ス

ル土地等ニテアラザレバ牝山羊ノ群ヲ牧養スル

非ト稀大州野ニ辭ハシテ由リ

牝山羊ノ肉ハ硬クシテ革ヲ嚼ム如ク味美ナ

ク其美ト稱スベキ者ハ惟山羊兎ノ肉ナリ

牝山羊ノ皮ハ以テ革囊ヲ製スベシ佛朗西南方

州郡ニ於キテハ葡萄酒油及脂肪質ヲ納ル

ニ其囊ヲ用非ルナリ

牝山羊ノ乳汁ハ味淡ニシテ消化シ易シ故ニ醫
 家之ヲ需用スルコト屢ニ以テ乳油ヲ含ムガ
 故ニ中品ノ酪ヲ製スベシ佛朗西荷威爾内地方
 ニ於キテハ之ヲ以テ良品ノ乾酪ヲ製ス
 牝山羊ノ毛ハ線トナシテ各種ノ布ヲ織ルニ用
 非此線ノ山ト稱スル者即是ナリ頃者西藏種ノ
 牝山羊ヲ佛朗西ニ輸入セシニ由リ始メテ其長
 毛ノ下ニ微細ノ毛アリテ毎歲更生スルコト
 ナ知リ乃加什米爾印度ノ名ツクル美ナル肩衣
 ヲ製ス最美ナル毡毛ヲ最多量ニ生ズルハ克什

米爾牝山羊ナリ佛朗西産ノ牝山羊モ亦毡毛ヲ
 生ズルコトモ其量甚少ナレ但佛朗西産ノ牝山羊
 ヲシテ西藏産ノ牝山羊及克什米爾牝山羊ト交
 接セシムルガ故ニ方今ニ至リテハ佛朗西ニ産
 スル者モ亦多量ニ美質ノ毡毛ヲ生ズルナリ昂
 哈拉亞細亞土耳其ノ地名種ノ牝山羊ヲモ亦佛朗西ニ於
 キテ牧養スルニ能ク至細ノ長毛ヲ産出ス
 克什米爾牝山羊ノ毡毛ヲ採收スルハ其成熟ノ
 時ニ至リテ之ヲ始ム其法毎日注意シテ能ク牝
 山羊ヲ梳ルベシ此ノ如クスレハ之ヲ採收スル

二便ニシテ、且其獲ル所ノ切アルヲシテ良質ナ
 ラシムベク、亦其體ヲ傷害スル蟲ヲモ去ルコト
 ヲ得ルナリ
 北山羊ノ角ハ、牽鑽ニ加ヘテ各種ノ器ヲ製造ス
 ベキコト猶^ホ牛角ヲ用井ルガ如シ、或ハ又之ヲ熱
 湯ニ投ジ分子ヲ幾多ノ薄片トナシ、再蒸熟シテ
 柔軟ナラシメ益薄クシ、遂ニ壓具ヲ用井テ之ヲ
 延大スルナリ、其殘屑ハ集メテ熔解シ、模型ニ入
 レテ魚鱗ノ如クナラシメ、以テ攝及器具ノ柄並
 鈕^カ鈕^カヲ製ス、其最薄片トナシタル者ハ、透明ナ

如ク以テ硝子片ニ代用ス、其角ハ全ク毛及爪
 小同質ナリ、其質堅固ニシテ、其體中ニ骨質
 第三十二、鳥ノ骨ノ間ニ骨質ニシテ、其體中
 鳥ノ體肉ニ結構殆、哺乳獸ニ等シクシテ、血液運
 行並ニ呼吸機ハ全ク哺乳獸ト同シ、惟飲食消化
 機ハ結構ニ至リテ、稍異ナル所アルノミ、鳥ハ齒
 大ニシテ、其胃管ヨリ胃管至ル間、臍ト名シタル
 肥厚ニシテ、筋ノ多キ機關ナリ、此機關中ニセシ
 正ニト稱スル者アリテ、食物ヲ壓迫シ粉砕スル

此所ヲ以テ能ク消化スルモノヲ選ビテ食スル鳥類ニテハ、
又鳥ノ糞糞ヲ啄ム事當テ、偶然細粒ノ破石又併
セ吞ミテ胃内ニ送入スルガ故ニ、其破石亦磨
迫ニテ消化ヲ助ケ所異ルモノナリ、
鳥ノ卵産ム稱シテ、雌鳥ノ卵ヲ産ミテ定ム時、
間之ヲ抱キテ、
大抵其卵中ニテハ、
卵殼其殼中ニテハ、
卵殼其身ヲ養ヒ、既ニシテ時期至レバ、
破リテ外ニ出ス、然レテ其始メテ殼又出ス

幼時ニテ、
尾ヲ生シテ有用ニ辨ズルニ至ルニテハ、
護ヲ受テ、
鳥ノ體ニ結構シテ飛翔ニ便スル、
此羽翼ニテハ、
中虚ニシテ空氣其内ニ充滿スル甚ク輕ク、
天亦剛キガ故ニ、
鳥ノ羽色ハ萬様ニシテ皆大ニ光輝ヲ帶ヒ、
天亦能ク遠ク見達ス、
其音調甚ク娛樂ヲ給キ者多

鳥ハ嘴爪並ニ足ノ差異ニ從ヒ分チテ六目ト又
嘴亦足ハ糞飼養並ニ習慣隨由以氣結構ト形狀
異ト異トハ非者ナリ昔々_{（鳥ノ）}脚爪_{（爪）}ハ_{（足）}長_{（爪）}食肉鳥_{（鳥）}即鷲鳥_{（鳥）}第_{（爪）}
右_{（爪）}謂_{（爪）}カ_{（爪）}所_{（爪）}六_{（爪）}目_{（爪）}ト_{（爪）}然_{（爪）}葉_{（爪）}一_{（爪）}食_{（爪）}肉_{（爪）}鳥_{（爪）}即_{（爪）}鷲_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}
雀_{（爪）}也_{（爪）}雀_{（爪）}ハ_{（爪）}雀_{（爪）}第_{（爪）}三_{（爪）}鷄_{（爪）}第_{（爪）}四_{（爪）}綠_{（爪）}木_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}五_{（爪）}涉_{（爪）}水_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}
脚_{（爪）}鳥_{（爪）}或_{（爪）}ハ_{（爪）}海_{（爪）}濱_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}六_{（爪）}掌_{（爪）}形_{（爪）}足_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}七_{（爪）}爪_{（爪）}是_{（爪）}欲_{（爪）}以_{（爪）}鷲_{（爪）}鳥_{（爪）}其
爪_{（爪）}大_{（爪）}力_{（爪）}以_{（爪）}嘴_{（爪）}爪_{（爪）}跡_{（爪）}甚_{（爪）}強_{（爪）}久_{（爪）}能_{（爪）}之_{（爪）}陸_{（爪）}物_{（爪）}又_{（爪）}捕_{（爪）}獲_{（爪）}
之_{（爪）}之_{（爪）}之_{（爪）}碎_{（爪）}裂_{（爪）}ス_{（爪）}雀_{（爪）}ハ_{（爪）}目_{（爪）}微_{（爪）}ノ_{（爪）}分_{（爪）}明_{（爪）}ナ_{（爪）}ラ_{（爪）}ガ_{（爪）}ル_{（爪）}鳥_{（爪）}族_{（爪）}ヲ
夥_{（爪）}ト_{（爪）}也_{（爪）}南_{（爪）}爪_{（爪）}鷄_{（爪）}鷄_{（爪）}鳩_{（爪）}鷓_{（爪）}鴒_{（爪）}等_{（爪）}ニ_{（爪）}也_{（爪）}嘴_{（爪）}ハ_{（爪）}根_{（爪）}
皮_{（爪）}膜_{（爪）}ノ_{（爪）}表_{（爪）}以_{（爪）}テ_{（爪）}著_{（爪）}ク_{（爪）}綠_{（爪）}木_{（爪）}鳥_{（爪）}第_{（爪）}七_{（爪）}爪_{（爪）}此_{（爪）}鷄_{（爪）}哥_{（爪）}等

ナリ他目ノ鳥ハ皆前三三指アリ後二一指アリ
トモ此目ノ鳥ハ獨_{（目）}否_{（目）}テハ前後各二指アリナリ
涉水鳥ハ脚長ク之ニ羽毛才ク指ハ瘦キテ相分
離ス以テ沼澤ノ泥中ヲ行步スルニ便ナリ掌形
足鳥ハ皮膜アリテ其指ヲ連接ニ蹼膜ト為シ之
ヲ楫ニ代ヘテ巧ニ水中ヲ游泳スル者ナリ
鷲鳥及涉水鳥ハ肉ハ味甚惡シ家禽場ニ於キテ
畜養シ以テ人ノ食用ニ供スル者ハ雀ノ目中ニ
アリ鷄類並ニ掌形足鳥中ノ者モ亦殊ニ多シト

鳥ハ四時ノ冷熱ニヨリテ其棲處ヲ變換スル者多シ其時ニ及テハ群ヲナシテ遠去ス燕鶯鶯鴈等是ナリ多クハ冬日ニ至レバ寒成テ避テ務メテ温暖ノ地ニ趣クナリ

第二十三 鶯

鶯 第九十類ハ鳥中ノ至ニシテ其類多シ最大ナル者ヲエトケルトレシ金鶯ト名ツク身ノ長大約一尺ハト此ニシテ全ク兩翼ヲ張レバ左翼端ヨリ右翼端ニ至ルノ横徑ニ尺一トハ半ニ達ス鶯ハ平常岩石孤塔ノ上並ニ寂寞荒廢ノ地等ニ

幽棲ス其巢ヲ鶯鳥巢ト名メク樹枝ヲ縱横ニシテ之ヲ作り掩フニ藤葛細水ヲ以テ其形平ナ

第九十圖



リ鶯ハ生涯同巢ヲ保有シテ變セズト云フ然レドモ其説ノ信否ハ確定シ難シ卵ヲ産出スルコ

ト二三箇ニ過ギス、而シテ三十日間之ヲ抱乎ス
ルナリ

鷲ハ剛強ニシテ、能ク報ク綿羊牝山羊等ハ如キ
大ナル四足獸ヲ捕攫シテ、直ニ其巢ニ持去ル者
ナリ、其之ヲ捕攫スルニハ、先其獸ノ居ル所上
ヲ環状ニ翔舞シ、急ニ落下シテ之ヲ握捉ス、此時
ニ當リテ獸若鷲ニ抗スルトキハ、鷲其翼ヲ以テ
劇シク搏ナ之ヲ倒シテ眩セシム、次テ其目ヲ嘴
啄シテ盲セシム、若シ爾獸重大ニシテ捉去スルコ
ト能ハザルトキハ、其地ニ於キテ之ヲ碎裂スル

カリス、其ノ地ニ於テ、南食陽科鳥ニ且テ、
鷲ハ能ク久シク食ヲ絶、以由ト云ク、殆ど週用ノ
間絶食シテ死セザルハ、人ノ識レル所ナリ、鷲ハ
其幼ナル時捕獲スレバ之ヲ馴ヌヘシ、然レトモ
決シテ其猛烈ノ氣象ヲ損失セズ、些少ノ憤怒モ
堪忍スルコトナク、其畜主ヲモ憚ララズ之ヲ傷
害スルナリ、
國ニ由リテハ鷲ノ或類ヲ馴ラシテ狩獵ニ用井
テ處アリ、故ニ獵ノキルシ、裏海ニ在ルハ、野
兔、家兔、狐、牝山羊ヲ獵捕スルニ、鷲ヲ使役スルコ

卷五 中
九

ト輪往時鷹使役如シ獵者馬ニ乘リテ
 驚ヲ笠前ニ携ヘ、若ハ馬ノ肩上ニ載テ帽布ヲ以
 テ其頭ヲ掩ヒ獵獸ヲ見ヒ帽布ヲ脱去シ所之
 ヲ放リ是ニ於キテ驚忽空間ニ飛翔シ次ヲ落下
 シテ獸ヲ捕獲シ獵者ヲ来ルヲ待タシメテ上ニ
 大ニ此獵ヲ好ミ、遂ニ驚以價ヲシテ馬久價ヨリ
 貴カラシムルニ至レリト云々

開卷三十四 鷹カラスハ八ノ輪ノ次ニ飛ハル

第九十 八頭長クシテ屈曲シ易ク、頸並ニ頭ニ
 毛羽ナキヲ以テ驚上分別シ易シ、且驚ニ比スレ

ハ更ニ大ナリ故ニ南亞墨利加ノ所ニ此トル
 山即安健ニ棲メルコトト稱スル大鷹ハ全
 ク翼ヲ展開スレバ、右翼端ヨリ左翼端ニ至ルノ
 長五ノ一ト此ニ遠ス



其高飛スルト其時
 トシテ高嶽ノ頂ヨリ
 モ數百ノ一トルノ上
 ニ翱翔シ、殆天ニ上リ
 テ見エザルニ至ルコ
 トアリ

ガヲ一ツ一ルロアイヤル王ハ長一ノトト半

ニシテ全ク翼ヲ開ケハ右翼端ヨリ左翼端ニ至

ルノ長三ノトト以上アリ、體ノ重量三十里口

クランムニ達ス

鷲ハ舊大陸西細亞非利ニ多シ是亦截然タ

ル不毛ノ孤峯上ニ於キテ巢ヲ作ルコト猶鷲ノ

如シ但一歳ニ一卵ヲ産スルニナリ

鷲ハ常ニ山嶽ノ上ニ在リテ、餌獸ヲ捕攫スルカ

故ニ其餌獸多寒威ヲ避ケテ卑而温暖久地ニ下

リ、已ニ夫トヲ得ザルニ非サレバ、原野ニ出テハ

餌獸ヲ捕攫スルコトナシ

鷲ハ生獸ノ食スベキ者ナキトキハ死屍ヲ食ト

ス故ニ其生肉ノ缺タルニ逢ヘバ、群ヲナシテ忽

然舞下シ、牛馬等ノ死體ヲ衝爛シ、暫時ニシテ全

ク其骨ト肉トヲ分離スルナリ

戰鬪ノ際ニ臨ミテ、鷲戰場ノ上ヲ翔舞シ、戰終ル

ニ及テ夥多群ヲナシ、下來リテ死屍ノ肉ヲ食フ

コト屢コレアリ

埃及ノ如キ熱國ニテ死體速ニ腐敗スル地ニ在
リテハ鷲ノ速ニ動物ノ屍ヲ盡奪去ルガ故ニ、大

人身三利アリ、是乃以天往古埃及人ハ、鷓ヲ神禽人列ニ置ケル、新大陸世墨ニ於キテ、埃及ノ如ク此鳥ヲ保護スルモ亦是ガタノナリ

鷹ハ原歐羅巴ノ北部、挪威、義斯蘭及北魯西亞ノ産ナレドモ、往時佛朗西及歐羅巴中央ノ諸國ニ於キテ之ヲ馴養シテ鳥獵ニ供セリ、第九十其體ハ鷲及鷓ヨリ小ナレドモ勇氣ト飛翔ノ勢ト

ニ至リテハ決シテ之ニ讓ラズ、鷹モ亦他ノ鷲鳥ノ如ク雄鳥ニ比スレバ雌鳥ハ更ニ大ニシテ且強之然則其雌鳥ハ馴養シ難キ者ナリ、往時ハ

鷹ハ原歐羅巴ノ北部、挪威、義斯蘭及北魯西亞ノ産ナレドモ、往時佛朗西及歐羅巴中央ノ諸國ニ於キテ之ヲ馴養シテ鳥獵ニ供セリ、第九十其體ハ鷲及鷓ヨリ小ナレドモ勇氣ト飛翔ノ勢トニ至リテハ決シテ之ニ讓ラズ、鷹モ亦他ノ鷲鳥ノ如ク雄鳥ニ比スレバ雌鳥ハ更ニ大ニシテ且強之然則其雌鳥ハ馴養シ難キ者ナリ、往時ハ

鷓シロハ如利大鳥並鷲鳥ノ如キ鷲鳥又獵ス

樂ニテ亦鷹ヲ用キタヤルモ

鷹ヲ用キテ鳥又捕獵スルコトハ今既ニ久

シク之ヲ廢セリ

鷹ヲ用キテ鳥又捕獵スルコトハ今既ニ久

シク之ヲ廢セリ

鷹ヲ用キテ鳥又捕獵スルコトハ今既ニ久

シク之ヲ廢セリ



第九十三圖

第二十五 樂土鳥 蜂雀 金線雀 北鴨

雀自之鳥也諸人不知其類多也其半啖肉者有鴉如鳥是也或食穀粒或無血蟲者有雀此類最多也
 雀無花果食高雀鶯相思鵲金絲雀
 雀白鳩鳥黃雀等是也樂土鳥蜂雀金絲雀

樂土鳥第九十四圖就其古昔ヨリ笑フベキ奇

談ヲ傳ス曰久樂土鳥ハ足ナクシテ常ニ空中
 アリ眠ラシトスルトキハ其尾ニ生シタル二箇
 ノ長羽ヲ樹枝ニ卷繞シテ懸垂ス其雌鳥ノ卵ス

産スル時モ亦飛テ

止マラスト此妄説

ノ説リレ所以ハ歐

羅巴ニ於キテハ久

シク唯摩鹿加洲

群島ヲ産ス

産スル樂土鳥ノ死皮ノ一部分ヲ見ルノモニシ

夫其他ヲ知テザレハナリ



樂土鳥ハ甚小クシテ頭色甚美艶ナリ兩翼ヨリ
 綠色及黄色ノ長羽ヲ生ズ之ヲ高起シテ展張ス

レハ其體大ニ容量ヲ増スガ如ク又纖細ニシテ
殆無毛ノ二長羽アリ尾骸骨ヨリ出テ延長シテ
尾端ニ垂下ス

田婦線近傍ノ邦ニハ蜂雀類第九十及九十アリ

類ニ屬スル者多シ其體ハ羽ナク皆肥大ナルコ

トケル口ニ黃蜂又ノ如第九十五圖

シ毛色美麗ニシテ恰艶

花ノ色ト珍玉ノ光彩ト

又合スルガ如ク實ニ空

中ヲ飛行スル寶石ト稱六十四圖



スルモ可ナリ其空際ニ飛鳴スルコト殆ど似
タリ花ヨリ花ニ飛行シ或ハ無血蟲ヲ啄食シ又
自己ヨリ十倍セル鳥或ハ蝮蛇、蜥蜴等ノ来リテ
其巢ヲ侵スルキハ勇ヲ奮ヒテ之ヲ防禦ス其動
作甚駿速奇巧ニシテ遂ニ能ク敵ヲ退クルニ至
ル

金線雀ハ原加拿列斯大西洋ニアリ所ノ西非利

ス産ニシテ其始メテ歐羅巴ニ入リタルハ蓋

第十四紀一千三百〇一年ヨリ一千四百年ニ至

リ二千〇六年中頃ナルベシ性能久馴レテ教ヲ

十年ノ間

受タルニ堪フ、故ニ反覆訓導スルトキハ嘯リテ
音調ヲ變ニ、或ハ不リ子トト名クク此小キ風
樂器ヲ彈セシメ、又數種ノ小技藝ヲ習ハシムベ
シ、鐘ヲ裝藥シ又之ニ點火ニ、或ハ詐リテ死スル
等ノ戲ノ如キ是ナリ

以太利及希臘ニ於キテハ金絲雀ノ類アリテ
森林中ニ遊飛ス、元來此鳥ハ他ヲ摸擬スル性
有テ故ニ鶯ノザリシニ等々如キ其同群ノ鳥ノ
鳴聲ヲ能ク不ニ辨計ス、凡ハ群鳥ノ聲ノ
鳴聲ノ如キ此鶯哥ハ雀目系屬スル者ニテ、
鶯哥ノ類甚多シ、羽色種々アリテ皆光澤鮮明ナ

木鳥ノ目系屬スル者ニテ、其ノ聲モ其ノ與ニ相
鶯哥ノ諸鳥ノ中最モ其ノ人聲ヲ摸擬スル者ナリ、
時々並テ能ク聲音ノ高低緩急ヲ節シ、明カニ人
ノ言語ヲ擬ス、且ト山ノ鳴聲ノ如キハ、惟嘯ル
ニ似テ、若クテ別ニ摸擬スル者トナシ、其ノ子ト
ハ馴養スルハ、能ク聲音ノ高低緩急ヲ節スレド
モ、亦嘯聲ノ人ノ如ク、嘯シタル音ヲ變スルニ過
キテ、固ヨリ皆鶯哥ノ類ニテ、其ノ聲者キアズ、鶯哥
ハ多ク並墨利加ヨリ來ル、並墨利加ニ於キテハ
鶯哥ノ類甚多シ、羽色種々アリテ皆光澤鮮明ナ

第二十六回 燕

燕ハ雀目ニ属ス其類多シ其相異ナル所ハ羽色
 三ノ不更羽ハ大抵皆黒色ナリ白燕ニ差異
 此ハ火此鳥ハ轉ルキナリ其空中ニ群翔シ或
 ハ地ニ接近シテ無血蟲ヲ拾フ時ニ當リ天鏡モ
 小聲ヲ發スルノミナリ飛行甚捷急ニ轉ル時
 加テ直行スルキナリ矢ノ如ク又時ニハ駿速ニ廻
 轉翔翔シテ目視シ難キコトナリ其地上ヲ跋行
 スル燕血蟲ヲ啄ミ去ルトキモ敢テ足ヲ地ニ附

少ク其水ヲ飲ムニ臨ミテモ亦飛テ止マズ
 燕ハ夥多群ヲナシテ飛行ス其道ク相類スル所
 ノマルチ子トニ混シテ群ヲナスコト屢コレ
 リヤルチ子トハ足甚短クシテ一タビ地ニ休止
 スルトキハ急ニ飛去ルコト甚難シ
 燕及マルチ子トハ「エベルウ」又ハ「ユー」
 如キ鶯鳥以認視スルトキハ鏡キ聲音ヲ發シテ
 其友ヲ呼ビ相集ヨリ群ヲナシテ共ニ敵ニ向ヒ
 大抵常ニ敵ヲシテ退去セシムルナリ
 秋至リ寒冷ヲ催セバ燕ハ皆群ヲ大ニ歐羅巴

其去リテ暖國ニ趣キ、春氣未復シテ溫和不ナレ
 大、遠地ヨリ舊土ニ還ル、其前年構ケル所ノ故巢ニ
 又忘レテ入リ、戻之ニ入ル者多シ、其能ク故巢ニ
 入ル者、烟突燕ト名ツクル類ヲ特ニ多シトス
 類本、支那、本並、印度人々甚、嗜好スル所、燕
 巢ハ、此各國ニ氣候未適ヘル燕類ノザランガ又
 ト名ツタル者ハ、巢未成ニテ、一ツニ成ニ付山
 第二十七「獵鳥」家禽、水鳥ト云フ、雄
家禽、水鳥ヲ除ク外多クハ、鷓鴣、目ニ属ス、雄
鷓鴣、孔雀、鴉ニタリ、七面鳥是ナリ、捕獸犬ヲ

用非テ、狩捕スル獵鳥、鷓鴣、林鷓鴣、又
 ト云フ、鷓鴣及雄モ亦此目ニ属ス
鷓鴣、華九十八、赤色又ハ淡黑色ナリ、平常田野及
 林叢ニ住ミテ、樹枝ニ棲マス、第九十六圖
隴畝或ハ叢中ニ巢ヲ作りテ
 必、群居ス、通常其群中ニ雄ヲ
 有シ、所ノ雌鷓鴣一二ノ混
 鷓鴣、鷓鴣ニ比スレバ小ナレ
 其肉ノ味ハ鷓鴣ヨリ甘



第九十六圖
 鷓鴣林鷓鴣

美夫... 且、脂多、鶉ハ佛朗西ニ棲止セバ、秋末
 三至... 不爾、蕪薩佛朗西地名ニ来レドモ、復、忽、去リ
 テ地中海ヲ越ユ、遠ク亞非利
 加ニ行キテ、冬春ヲ過テ、其容
 貌舒遲ニシテ、翔翔ト拙ニ
 似テ、飛下雖、亦輕快健飛スル
 事アリ、其ノ... 佛朗西ノ森林
 氣候... 通常



第九十七圖

一雉ハ殊ニ然リ、其金色ヲ帶アル者ク甚、艶美ナ
 リ、雉肉ノ新鮮ナル者ハ硬クシテ味ナシ、然レド
 モ數日之ヲ貯ヘテ軟肉トナシ、美味ヲ生ジテ
 大ニ人ノ珍貴スル食物トナル、總テ肉ノ新鮮ナ
 ラザル者ヲ雉臭肉ト稱スルハ、蓋、此ニ原クナ
 ラン
 雄雞第九十八圖ハ羽毛ニ光彩アリ、濃色美麗ニシテ
 倨傲ノ風アリ、且、勇アルヲ以テ著名ナリ、其勇ア
 ルガ故ニ能ク闘フ、英吉利人々大ニ闘雞ノ戯ヲ
 好ム、其、衆人ノ能ク知ル所ナリ、雌雞ハ卵ヲ連産

牙... 第五中... 第九十八圖...

第九十八圖



スル遺肉、蛆蟲ヲ以テ食トス
七面鳥第九十八圖其雄ヲト云ヒ、雌ヲト云ヒ

スルコトハコリ十二ニ至
ル、而シテ之ヲ肥育スルコ
ト二十一日ヲ要ス、鶏ハ卵
ヲ産シテ、未ダ食ニ供シ、其
肉モ亦食フヘシ、鶏卵ハ大
ニ滋養ハ功アレドモ、鶏肉
ニハ滋養ノ功甚、麩ナシ、鶏
ハ穀粒、無血蟲及、獸糞ニ存

第九十九圖



トノト稱ス、人ニ利益ナルコト
殆、雞ニ等シ、其體ハ家禽中ノ最大
ナル者ニシテ、肉モ亦最甘美ナリ
且、甚、育飼シ易シ、能ク家外ニ在リ
テ夜ヲ明ス、其既ニ成長シテ筋力ノ十全ナル者
ハ、嚴冬寒雪ノ夜ト雖、亦屋宇ヲ設ケズ、露出シテ
能ク明ニ徹スル者ナリ、勇アリテ其巢ヲ暴凌ス
ル所ノ小キ食肉動物ハ、トイフ、ハ、トイフ、ハ、トイフ
能ク抗拒シ、遂ニ之ヲシテ遁走セシムルコト屢
コレアリ

孔雀 圖 第一百八目ヲ喜バシムベキ鳥ニシテ、他ニ利

益アリ死者ニアラス、往古ハ之ヲ食膳ニ供セシヨ

トアレドモ、第百圖 ハナトキ ハナトキ ハナトキ

傳、裝飾ニシ

テ娛樂ニ用

テ餘セ以、其

頭ハ甚小ニ

シテ傲然自

得ノ風アリ、

二十四管ノ



把羽ノ冠アリ頭ヲ裝飾ス、喉并ニ頸ノ毛ハ青

色附シテ、金色ト緑色トヲ混交、且ニ映スレハ

其光彩以自負スル者以如シ、尾羽ハ殊ニ大ニシ

テ、傲然之ヲ展張スルトキハ其横徑殆、二ノ一ト

シ、及ビ輝色艶々人目ヲ眩惑ス、傳ハ言フ古人

ハ孔雀ヲシニシノ女神ノ鳥ナリトシ、且、之ヲ以

テ驕傲ナル者ノ譬論トス

第三十卷 鳩 借若鳩 鳩 長生

鳩ハ其類甚多シ、常鳩ハ家禽場ニ飼養シテ、食ハ

シムルニ大麥、裸麥、燕麥、豆等ヲ以テス、野鳩ハ青

野ノ鳥類也

色ニシテ石磐色ヲ帶ヒ、平常鳩巢ニ寢宿シ、卵ヲ
 孚スルモ亦茲ニ於キラス然レドモ晝ハ毎日飛
 去リテ、森林ニ往キ自食ヲ搜索ス、冬日ニ至レバ
 晝夜巢中ニ幽居シ、人ノ與ラル所ノ穀粒ヲ食ス、
 林鳩ハ森林ノ高樹ニ巢ヲ作りテ棲住ス、人之ヲ
 鳩巢ニ入ルヲ養フコトヲ得ス、家禽場ニ於キテ
 養フベカラズ、亦籠飼スルコト能ハサルナリ、籠
 鳩ハ常鳩野鳩林鳩ニ比スレバ健ニシテ其肉モ
 亦價貴シ、且、甚馴養ニ易シ一旦棲巢ヲ與ヘテ之
 ヲ居ラズ、數日ヲ歷レバ復去ルコトナシ、性質

溫柔羽色清潔ニシテ動作モ亦順暢ナルガ故ニ
 籠鳥並ニ家禽中最、愛スベキ者人ニナリ、
 傳信鳩ハ眼ノ周圍ニ羽毛ナキ水毛色ヲ濃クル
 トヲ以テ、他ノ鳩類ト異ナリトス、性其産スル所
 ノ舊土ニ固著シ、決シテ之ヲ離レズ、假令一
 百里併朗西ノ一里ハ我一或ハ二百里ノ遠キニ移ス
 卅里之ヲ放テテ羈制セザレバ、忽チ空際ニ飛出去
 リ其方向ヲ誤ルコトナク、一直線ニ故郷ニ向ヒ
 テ歸ル、其飛行ノ速ナルニテ、每分一時間ニ十五
 里程ヲ飛翔シ、至駿ノ瀛東ヲモ能ク輒外飛過ス

皇三至此故以此鳩ヲ馴養シテ公書ヲ傳送又
 ハ政圖ヲ受テル城中ノ人ニ音信ヲ通因ルコト
 屢有リテアリ信也。其後ハ政圖ヲ受テル
 北亞墨利加ニ鳩ノ變態旅鳩（註）名ツ久ル者
 芽百一圖（註）アリ常ニ大群ヲ成テ各地ニ
 旅行ス今諸經驗ノ中其説ヲ最
 信用スベキ博物家（註）オボリ川
 合衆國ノ岸ニ於テ目撃セル
 旅鳩ノ大群ヲ掲載シテ之ヲ證
 明スベシ凡廣ニテトト此人



大群ヲ以テ空際ヲ掩覆スルコト恰雲霧ノ起ル
 ガ如ク而シテ三時間太陽ヲ遮蔽セリ其三時間
 太陽ヲ遮蔽スルヲ以テ之ヲ測ルニ其群ノ長大
 約二十五マイルアリアノト此ナルベシ而シテ此群
 ノテス所ノ鳩ノ員數ハ十億ト算スレドモ尚恐
 ラクハ其實ヨリ少ナカルベシ其群鳩ノ森林ニ
 降りテハ大ニ暴凌ニ暫時ニシテ樹枝盡折レ
 鮮葉全ク脱シ地面糞ヲ積ミテ堆ヲナスニ至ル
 颶風ト雖能ク之ニ過ク事ナトシテ土人嘗テ旅
 鳩ノ一大群ノ飛ビ倦ミ其林ニ休息スルヲ窺ヒ

大群ノ飛ビ倦ミ其林ニ休息スルヲ窺ヒ

夜ニ至リテ火把ヲ用ニ其杯意ヲ襲ヒケレバ群
 鳩其火光ヲ見テ忽眩惑亂飛ニ其方向ヲ失ス是
 ニ於テテ獵者竿ヲ前後左右ニ振りテ之ヲ打チ
 鳩陸續ト落死シテ其數幾百ナルヲ知ラズト云
 フ
 皆老鳩ハナライロ長生ハナシ亦鳩種ノ十ナリ佛朗西ニ於キテ
 ハ林中ニ棲止スレドモ亦馴ラシテ之ヲ家畜シ
 易シ性甚相親愛シ雌雄常ニ偶ヲ成シテ離ル
 コトナシ其卵ヲ抱乎天際ルニ至トバ互ニ之ヲ
 抱乎シ雌ノ巢ヲフルルキハ雄出テ食ヲ求メ

雄ノ巢ニマールトキハ雌出テ食ヲ求ム此ノ如

ク相親愛スルガ故ニ以テ親愛ノ譬論トナレリ

第二十九 駝鳥

駝鳥トウ第百ハ大鳥ナリ其高殆二メト此ニ及フ

者ハ人頸ハ長クレテ羽

ナク小キ頭ヲ戴キ嘴ハ

短クシテ扁ナリ目ハ柔

和ニシテ銳カタス體ハ

大ニシテ穹窿形ヲナシ

兩脚皆裸ニシテ羽毛ナ

第百二圖



久且長クシテ筋力強シ、指ハ殆相連接スルコト
 猶食草動物ノ如シ、兩翼ハ甚短クシテ、其巨大ナ
 ル體ヲ支ヘテ飛翔スルニ適セズ、翼ニ美ナル大
 羽アリ婦人之ヲ用非テ粧架ノ裝飾トス
 駝鳥ハ中亞非利加ニ棲居ス、時ニハ大群ヲ結ビ
 テ沙漠ヲ經歷スルコトアリ、遠方ヨリ之ヲ見レ
 ハ、恰騎兵隊ノ行軍ノ如シ、之ガ為ニ隊商大ニ恐
 怖スルコトアリ、傳ヘ言フ駝鳥ハ砂石鏝片其他
 見ル所ノ者ハ、皆之ヲ食ヒ能消化スト、其實ハ然
 ルニアラス、駝鳥ハ大ニ飲食ヲ貪ルガ故ニ、時ニ

ハ誤リテ此種ノ物ヲ食フコト不トモ、亦飲食
 消化機關ヲ通過シ、大便ニ混ジテ排泄シ、決シテ
 消化セザルナリ



駝鳥ハ南亞非利加ニ在リテハ、大ニ田地ヲ荒擗
 シ、小麥玉蜀黍等ヲ害ス、之ヲ捉テ食トストモ、疾
 走シテ能ク逃去ス、其速ナルコト駿馬ト雖及ブ
 コト能ハズ、若順風ニ乘シテ翼ヲ開クハ、更ニ速
 ナリ、其馳走ハ此ノ如ク駿速ナルトモ、亦之ヲ捕
 獲スル法アリ、其棲巢ヲ繞圍シテ、他ニ行クコト
 ヲ得サラシメ、且、幾隊ノ馬ヲ設ケテ數交換シ、力

ヲ極メテ窮追ス之ヲ見テ其疲勞キクニ致シ其鳥ハ卵ヲ熱波熱中ニ産ク時ト云テ小峰又頂ニ産ク其ト云テ其是抱子易キカ為テ夜而シテ其卵ヲ抱子スルハ專夜間ニ於キ閉シ晝ニ巢ヲ離レテ太陽既温熱ニ任テハ其類其類其類ニ第百三圖 泰若ク其鳥ハ涉水鳥又長目ノ鳥ナリ其他此目ニ屬スル者多シ皆脚長ク頸長ク嘴モ亦長クシテ天沙土沼澤ノ中ニ食ヲ搜索スルニ便ナリ

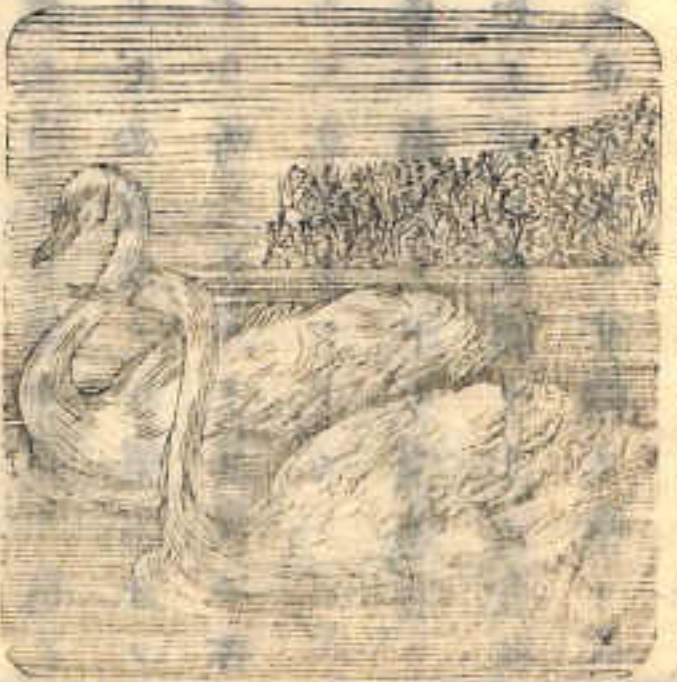


第百三圖 是ナリ不 第百四圖 七区ハ能ク爬行動物ヲ啄ムガ故ニ埃及人ハ之ヲ神鳥トモリ「ベカ」区一種「コウ」魚狗等モ亦此目ニ屬スルモノナリ 第三十 鷓鴣 エイデル 鷓鴣及 掌形足鳥 水鳥ノ目ニ屬スル者ハ其嘴皆平扁ニシ



テ趾ニ膜皮アリテ之ヲ聯結スル故ニ其足指形
 ヲナス其水面ニアリテ進行スルニ當リ足ヲ後
 ニ轉スル時ハ指ヲ展開シテ扇ヲ開クガ如クニ
 シ、足ヲ前ニ返送スル時ハ其指ヲ折疊スルナリ
 掌形足鳥ノ目ニ屬スル者ハ鶩鶩鶩鶩、鶩鶩、鶩鶩
 鶩ハトハト也、五不テ此一鶩類等是ナリ
 野生ノ鶩及鶩ハ冬ニ至レバ佛朗西ノ川河沼池
 ニ來リテ浮游ス、此二鳥ヲ家畜スルコト既ニ久
 シ、其肉ハ美味ナリ、鶩鶩類ハ羽色清白ニシテ、其浮泳ハ心ヲ樂マシ
 鶩第百五圖

△是セ亦見テ樂ムベシ、鶩鶩類百五圖其類同ナリ
 キノ目ニシテ殆他ニ
 功用ナキコト猶孔雀
 ノ如ク而シテ其鳴音
 ノ快カラザルコトハ、
 鶩又ハ鶩ノ聲ノ如シ
 且之ヲ聞クコト甚稀
 ナリトス



エイテ此ハ鶩族ナリ、蘇格蘭掛耳瓦義斯蘭ニ棲
 居ス、人ノ寢ルトキニ足ヲ被覆スル衣ヲ製スル

至大鳥類一巻五中
 取之、巢床ニ布クガ故ニ、通常其巢中ヨリ毳毛
 且獲取スルナリ然レドモ必、哉然タル岩石上ノ
 容易ニ近ヤ然レカテザル所ニ於キテ其巢ヲ作
 ル所以テ之ヲ獲取スルニ危難多シトス

鶉鳩チロコ其體形ハ鶉ニ類スレドモ、嘴甚長ク
 其下頤ニ夫囊ニ如クナル皮膜アリテ、食物
 ヲ含蓄シテ巢ニ運輸ス、世人大ニ其雛ヲ愛スル
 者トシ、傳ヘテ鶉鳩ハ自嘴ヲ以テ其腹側ヲ裂キ、

血ヲ出シテ其雛ヲ飲スルヤ、然レドモ
 其實ハ囊ヲ壓搾シ、其中ヲ含メテ食物ヲ出シテ

第百六圖 鶉鳩之雛ニ與フルニ過キズ



又其屢嘴ヲ羽下ニ挿入シ
 テ搜索スルハ、毳毛ヲ啄取
 シテ其巢ヲ衰ヒ、或ハ脂油
 ヲ味ダテ之ヲ羽面ニ塗ル
 カ為ナリ、是獨鶉鳩ノミニ
 アラス諸鳥皆然リ、水鳥ハ
 珠ニ然リトスルナリ

鷓鴣 第七圖 亦水濱ニ棲ル所 第百七圖

ノ肥大ナル鳥ニシテ容貌舒
遲跛歩蹇行スル者ナリ、冬ニ
至レハ岸ニ沿ヒテ川ニ湖ニ
其性貪饕極リナク殆、川中
魚介ヲ盡スニ至ル
諸國ニ於キテモ多ク然レ
モ、將ニ支那ニ在リテハ、鷓鴣
其捕ハ之ヲ馴ラシメテ漁獵ニ用井余、類、其頸ニ録
其施出テ捕スル所ハ魚介ヲ嚙下メ其類ノ能ク



ガラシムルト云フ

清水世信 校
狩野良信 画
北爪有卿

牙 初學須知卷之五中終

